

新型コロナワクチン予防接種についての説明書

ファイザー社製

新型コロナウイルスワクチン接種について

本ワクチンの接種は国と地方自治体による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチン接種事業の一環として行われます。本ワクチンの接種は公費対象となり、希望者は無料で接種可能です。なお、本ワクチンは16歳以上の方が対象です。

ワクチンの効果と投与方法

今回接種するワクチンはファイザー社製のワクチンです。新型コロナウイルス感染症の発症を予防します。

ワクチンを受けた人が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないということが分かっています。（発症予防効果は約95%と報告されています。）

販売名	コミナティ [®] 筋注
効能・効果	SARS-CoV-2による感染症の予防
接種回数・間隔	2回（通常、3週間の間隔） ※筋肉内に接種
接種対象	16歳以上（16歳未満の人に対する有効性・安全性はまだ明らかになっていません。）
接種量	1回0.3 mLを合計2回

- 1回目の接種後、通常、3週間の間隔で2回目の接種を受けてください。（接種後3週間を超えた場合は、できるだけ速やかに2回目の接種を受けてください。）
- 1回目に本ワクチンを接種した場合は、2回目も必ず同じワクチン接種を受けてください。
- 本ワクチンの接種で十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日程度経って以降とされています。現時点では感染予防効果は明らかになっていません。ワクチン接種にかかわらず、適切な感染防止策を行う必要があります。

予防接種を受けることができない人

下記にあてはまる方は本ワクチンを接種できません。該当すると思われる場合、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 明らかに発熱している人（※1）
- 重い急性疾患にかかっている人
- 本ワクチンの成分に対し重度の過敏症（※2）の既往歴のある人
- 上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある人

（※1）明らかな発熱とは通常 37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

（※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

予防接種を受けるに当たり注意が必要な人

下記にあてはまる方は本ワクチンの接種について、注意が必要です。該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人
- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある人
- 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- 本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人

新型コロナワクチンの接種を受けた方へ

～接種後(特に接種直後～数日間)は体調に注意しましょう～

ワクチンを受けた後は、**15分以上は接種会場で座って様子を見てください。**

(過去に重いアレルギー症状(アナフィラキシーを含む)や、採血等で失神や気分が悪くなったことがある方は**30分ほどお待ちください。**)

起こるかもしれない症状(接種者の10%以上に起こったもの)

本ワクチンは筋肉内注射のため、痛みや腫れなどの軽い副反応は頻繁に現れますが、**通常、数日以内に治ります。**必要に応じて解熱鎮痛剤を服用するなど、しばらく様子を見てください。(日常生活に支障をきたす重い症状の割合は、ごくわずかです。)

【症状の発現状況、時期、持続期間】

症状										
	痛み	腫れ	下痢	筋肉痛	関節痛	頭痛	疲労	寒気	発熱	
発現割合	84.3%	10.6%	15.5%	37.9%	23.7%	55.1%	62.9%	32.4%	14.8%	
発現時期	接種当日		接種翌日							
持続期間	約2日		約1日							

【重い症状の発現状況】

症状	痛み	腫れ	下痢	筋肉痛	関節痛	頭痛	疲労	寒気	発熱
発現割合	<u>1.5%</u>	<u>0.4%</u>	<u>0.3%</u>	<u>1.8%</u>	<u>0.9%</u>	<u>2.4%</u>	<u>4.2%</u>	<u>1.8%</u>	—

出典：海外第I/II/III相試験(C4591001試験)及び国内第I/II相試験(C4591005試験)

このワクチンは2回接種を受ける必要があります。これらの症状の多くは、**1回目の接種より2回目の接種時に高い頻度**で認められました。また、**高齢者よりも非高齢者に高い頻度**で認められました。副反応が生じるのは、免疫反応のあらわれと考えられ、きちんと免疫ができている証拠ともいえます。

上記のような症状が続いたり、いつもと違う体調の変化や異常があれば、**接種を受けた医療機関やかかりつけ医、もしくは、県の専門相談窓口**へ相談してください。

ひどい痛み・腫れ、高熱など重い症状と思われる場合は、医師の診察を受けてください。

起こるかもしれない重い症状(頻度不明)

【症状の発現状況、時期】

- ワクチン接種直後から、時には5分以内、通常30分以内に以下の症状が現れた場合、ショック、アナフィラキシーの疑いがあります。

(アナフィラキシー発生率：接種100万回あたり11.1件)

出典：海外第I/II/III相試験(C4591001試験)及び国内第I/II相試験(C4591005試験)



・皮膚のかゆみ
・じんま疹
・紅斑
・皮膚の発赤
など



・腹痛、吐き気
など



・視覚の異常



・声のかすれ
・くしゃみ
・のどのかゆみ
・息苦しさ
など



・蒼白
・意識混濁
など

接種後しばらくの間は、会場でお待ちいただき、このような症状がみられた場合には、ただちに、接種会場の医師、看護師等に伝えてください。

- 万が一、接種会場から帰宅後、上記の症状等が現れた場合には、県が設置する24時間対応の専門相談窓口にご相談ください。

深刻な症状が出たら

埼玉県新型コロナワクチン専門相談窓口

☎ 0570-033-226

24時間 土日祝日も対応
専門的な知識を有する看護師等が相談に応じます。



詳細・最新情報は
こちら
(埼玉県HP)

予防接種による健康被害についての補償(予防接種健康被害救済制度)

- 新型コロナワクチンの接種により、健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)を受けることができます。申請に必要な手続き等については、住民票がある市町村にご相談ください。審査の上、認定された場合に市町村から給付されます。

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応への対応について

大久保医院
大久保裕雄

新型コロナウイルスワクチン接種後、接種部位の痛み、頭痛、倦怠感、筋肉痛、発熱などがみられることがあります。接種後 1-2 日以内に起こることがほとんどで、数日で回復することがほとんどです。

症状を感じたら早めにアセトアミノフェン（解熱鎮痛剤の一種）を内服することで症状が和らいだとの経験談もありますので、症状のある方は試してみてもよいかもしれません。症状が出る前に予防的に内服することは推奨されていませんので、避けてください。

アセトアミノフェンを含む市販の解熱鎮痛剤にはタイレノール A、ノーシン Ac、バファリンルナ J などがあります。（成分に「アセトアミノフェン」が含まれていることをご確認ください。）ほかに内服中の薬がある場合や持病で通院中の場合は主治医や薬剤師に飲み合わせについてご確認ください。

また、頭痛やめまいなどがみられる際は血圧が高くなっていないかご確認ください。症状の程度が強い場合や 2 日以上続く場合には受診をお勧めします。

☆ 注意！

咳や咽頭痛、味覚障害、嗅覚障害などはワクチン接種後の影響でみられることはほとんどありませんので、これらの症状がある場合は通常の「職員の体調不良時の対応」通り、所属長に報告して休み、近医に受診してください。（受診時には新型コロナウイルスワクチンを接種した旨を申告してください。）

当院では、アセトアミノフェン(300mg)6錠-2日分を自由診療(保険外)にて150円で処方しております。自宅に上記下熱鎮痛剤をお持ち出ない方でお薬希望のかたは受付までお申し出をお願いします。 2021.05.24